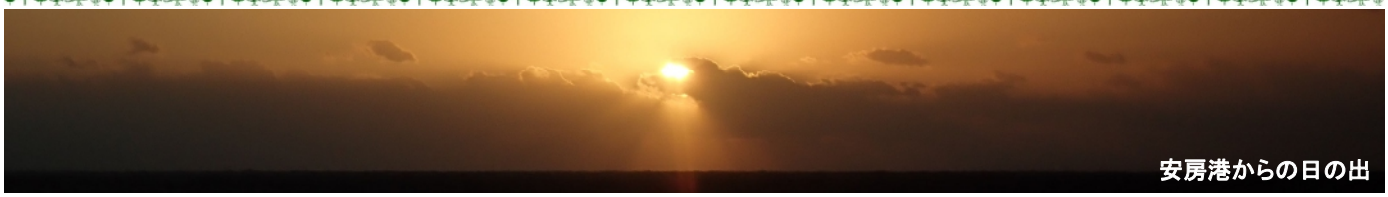
洋上アルプス

No.298　2020年1月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL0997-42-0331　FAX0997-42-0333



安房港からの日の出

新たな令和、屋久島・種子島の門出

屋久島森林管理署
署長　西 純一郎

令和になり、初めてのお正月を迎えました。明けましておめでとうございます。旧年中は当署に対して格別のご支援、ご厚情を賜り、心からお礼申し上げます。

県やレクリエーションの森保護管理協議会によれば、屋久島には年間約28万人の観光客が、ヤクスギランドと白谷雲水峡には合わせて年間約16万人のお客様がおいでになっています。16万人の内訳は、約14パーセントが外国人で、半数以上がアジア、約3割が欧州からです。遊歩道では、多くの外国人の皆様から「こんにちは。ありがとう」と感謝の言葉を頂戴します。

世界自然遺産の島・屋久島では、屋久島の現状や取組状況を検証し、さらに屋久島を進化させるため、様々な会議や報告会などが開催されています。

私どもは、これらの会議などで提供いただいた学識経験者や研究者、献身的に調査いただいている民間の御方のご意見や報告などを参考に、進路を定めていかねばと考えています。

また、現在、健康、観光、教育などの多様な分野で森林空間を活用する「森林サービス産業」の可能性に関する検討が進められていると聞いています。これらの動向を把握しつつ、屋久島や種子島でも対応可能か、近々に検討していくことになるかもしれません。

幸いにも、今年は東京オリンピック・パラリンピックが行われます。おいでになった外国人の皆様が是非屋久島、種子島にもお立ち寄りいただけるよう、誘致の際に話題となった「お・も・て・な・し」の精神で、今年一年取り組まなくてはと思います。

最後に、本年が皆様にとって素晴らしい年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新時代を迎えて

屋久島森林生態系
保全センター
所長　黒木 興太郎

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は屋久島森林生態系保全センターの取組および洋上アルプスの発刊に対しまして、皆様方から格別のご支援とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

当保全センターでは、世界遺産に登録されている屋久島の貴重な森林生態系の適切な保全と利用を図り、世界自然遺産地域の価値を向上させるために、関係機関と連携するとともに地元の方々のご協力をいただき、各種モニタリング調査や森林生態系回復措置などに取り組んでいます。

今、屋久島では、ヤクシカによる森林の下層植生への食害やアブラギリなど外来植物の侵入により、本来あるべき森の更新や多様な生態系に悪影響を及ぼす懸念があります。昨年は、5月の記録的な豪雨で島内の至る所で山腹崩壊が発生、また、近年まれに見る松枯れの被害も発生しました。これらについては、今後、適切な対策が必要であり、特に世界遺産地域内については、将来にわたって適切に保全していくことが非常に重要です。

当保全センターでは、屋久島の貴重な森林生態系を守っていくために、各種モニタリング調査や外来種対策など、できることはしっかりと継続して取り組んでいくこととしています。

また、洋上アルプスは、昨年、第53回林業関係広報コンクールで最優秀賞を受賞し、今年は、300号の節目を迎えます。これもひとえに皆様のお力添えがあったからこそだと思います。今後とも当保全センター及び洋上アルプスにご支援・ご協力の程をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本年が皆様にとって幸せな年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

「安房中学校1年生森林教室」令和元年度2回目を開催　（11月28日）

屋久島地杉の製材を見学する生徒

屋久島森林生態系保全センターでは、11 月 9 日に実施した安房中学校での森林教室に続いて、11 月 28 日に 2 回目の安房中学校 1 年生に対する森林教室を実施しました。今回の森林教室は、当初「小杉谷小中学校」跡地周辺において、植物観察や小杉谷の歴史についての講義、丸太切り体験等を実施する予定でしたが、天候不順により安房貯木土場や屋久島地杉加工センターの見学、屋久島森林生態系保全センター会議室で葉っぱの見分け方や林業遺産、小杉谷の歴史の座学と木工品づくり、最後は平成 28 年度と 29 年度に屋久杉自然館の敷地内に安房中学校の先輩達が植栽した「リンゴツバキ」を見学しました。

生徒達は、小杉谷に行ったことがない者が大半だったため、現地に行くことができず大変残念がっていました。しかし、安房貯木土場で土埋木の香りを体験したり、地杉加工センターで地杉を製材する様子を見学できたこと、林業遺産や小杉谷の歴史と近年の屋久島の森林施業について詳しい話を聞けたことで、より屋久島の森林・林業について理解と興味を持ってくれたのではないかと思います。特に、地杉加工センターでの質疑の中で、屋久島の地杉で家を建てたいという生徒が数名手を挙げてくれたことは大変嬉しく頼もしく感じました。今後も様々な体験メニューを考え、屋久島の子供たちへ屋久島の森林・林業について伝えていきたいと考えています。

センター会議室で小杉谷の歴史を学ぶ

『森がすき ずっとずっと 守りたい』 ― 熊毛地区植樹祭 ―（11月29日）

一般参加者の植樹風景

屋久島町内において、第 66 回熊毛地区植樹祭が開催され、関係者等約 150 名が出席しました。

式典は、木材利用優良施設コンクール内閣総理大臣賞を受賞した役場新庁舎で開催され、荒木屋久島町長のあいさつの後、林業功労者及び植樹祭テーマ入賞者等の各種表彰が行われました。午後から場所を町有林へ移し、記念植樹及び一般参加の植樹が行われました。一般植樹の前に当保全センターの奥村生態系管理指導官から、屋久島における苗木の育苗生産に係るこれまでの取組等について説明を行い、これからの屋久島、多様な生態系保全の観点からも人工林の施業を含めたバランスのとれた森林づくりへの協力をお願いしました。

入林届の提出について

国有林内に入林される場合（調査研究、撮影及び取材等）は、入林届の提出をお願いしています。入林届の手続きは、当保全センターのＨＰを開き、画面下部にある「入林申請」をクリックし下へスクロールすると、大きな文字で「入林手続きフォーム」と書いてあります。そのページを開き必要事項を入力していただきますと、当保全センターに情報が送信されますので、回答メールをお待ちください。

何かご不明な点等ございましたら当保全センター(☎ 0997-42-0331)にお気軽におたずねください。

切り株に見る瀬切川上流域の林業（第１回）

藤野正也　（京都府立林業大学校　客員教授）

屋久島の西部、瀬切川の上流域は屋久島で最後に大規模な伐採が行われた場所です。ここには大川林道が設置され、多くの木材が運び出されました。今回と次回の 2 回にわたり、瀬切川上流域に残されている林業の痕跡の様子をお伝えしたいと思います。

私がこの地域を知るきっかけとなったのは、ヤクシマザルの生態調査を行っているヤクザル調査隊に参加したからでした。瀬切川上流域を縦横無尽に移動するヤクシマザルを、時には森の中で一日中待ち、時には群とともに森の中をかけずり回りしました。瀬切川上流域は左岸に大川林道があり、昭和の時代に皆伐されました。右岸は皆伐が行われず、国立公園の第二種特別地域以上に指定され、世界自然遺産として登録されています。

瀬切川右岸は皆伐を免れたことで、江戸時代に伐採が行われて以降は自然の状態がそのまま残されています。そのため、スギ、モミ、ツガなどの大木を見ることができます。網羅的な調査を行ったわけではなく、瀬切川から 500m 程度の範囲内しか歩いていないのですが、そのような森でも、よく見るとあちらこちらに江戸時代にできたであろう切り株があります。

また、樹種不明の大木の幹に板のような物が打ち付けられた痕跡や、運び出されなかったと思われる平木（ひらぎ）のようなものなども散見されます。しかし、これらの痕跡はしっかりと調査したものではありませんし、ヤクザル調査隊のメンバーと話をしてもそういうものは見たことがない、と言われてしまうので、確証を持てずにいます。

一方で、連れて行ってもらったので確実に存在しているのが、大きなヤクスギの切り株です。目測ですが胸高直径 3.5m、株の高さ 4.5m です。ウィルソン株が胸高周囲 13.8m（真円だとすると胸高直径は 4.5m 弱）なので、これよりは小さいですが、島内で見かける切り株の中では大きい方だと思われます。この切り株には太ももぐらいの高さから胸ぐらいの高さにかけて、幅 2m にわたって試し切りを行った跡があります。

瀬切川上流域の切り株
（写真提供：半谷吾郎）

これらを見たいと思っても、残念ながらみなさんにご覧頂ける状況にはありません。歩道も目印も何もないので、案内もできませんし、そもそも自分でもたどりつけません。無理に場所を明らかにせず、森に入った人がたまたま出会う、というような存在のままでよいのかもしれません。（つづく）

屋久島の植物　　クロマツ（マツ科）

本州以南に分布する常緑高木。海岸林となっている（写真は宮之浦「なごりの松原」）。屋久島ではこの材を建築構造材に使った。また黒糖製造の燃料、松脂採取も行われていた。マツノザイセンチュウ病による松枯れが懸念されている。

巨樹・著名木 屋久杉　縄文杉

写真上：昭和47(1972)年
写真下：令和元(2019)年

現在、確認されている中で最大の屋久杉です。

背が低くずんぐりした樹形は台風の常襲地帯に育つ屋久杉の特徴をよく表しています。凹凸の激しい幹は、江戸時代に利用できない巨木として切り残されたことを示しています。

樹齢7200年という説もありますが、中心部は空洞になっており、その内側から採取した試料の科学的計測値は2170年となっています。登山者の踏圧により根が傷むことがないよう、平成8年に木製の展望デッキがつくられました。

着生する木本類は、サクラツツジ、ナナカマド、ヤマグルマ、アセビ、スギ等です。

周辺部の植生は、ヒメシャラ、ユズリハ等の高木からシキミ等の低木、ハイノキやヒメヒサカキの小低木の樹木が成育しています。

7～8m上部で分岐して枝葉を広げており、そのたくましい枝の付け根には多くの植物を着生させて頭上に小さな森をつくっています。訪れる登山者のためか下側の周辺植生はほとんど失われています。

縄文杉の保護に関する経緯を少し紹介します。最近では、平成17年に正面右側を中心に樹皮を剥ぎ取られる被害が発生したため、被害箇所の診断と治療を行い対策としてカメラを設置しました。同年の冬は豪雪にみまわれ大枝が折損落下する被害があり、ヘリで搬出した大枝は現在、屋久杉自然館に展示してあります。

その後においては、正面の大枝付け根部に腐朽箇所が見つかったことから、ケーブリングで落下防止対策を行うとともに、既設デッキを解体撤去し、平成28年度に新たな展望デッキが設置されました。その後、自然の状態に委ねるとの意見もあったことから、ケーブリング等も撤去しました。今では周辺木や下層植生も旺盛となり、屋久島の森の巨木として皆様を出迎えています。

- 樹高：25.3㍍
- 胸高周囲：16.4㍍
- 樹齢：2000年代から7200年
- 標高：1300㍍
- 場所：高塚山の尾根筋に近い南東斜面　大株歩道沿い

参考文献：屋久杉巨樹・著名木　改訂版（H11.7）

本号をもちまして、長い間連載しました「巨樹・著名木　屋久杉」は終了いたします。ご愛読に感謝申し上げます。次回からは、「屋久島のレクリエーションの森」についてご紹介し皆様へお届けいたします。これからも末永くよろしくお願い申し上げます。